

「まなびの広場」は那須教育事務所ホームページに掲載されます。
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/m56/system/desaki/desaki/nasu-kyouiku01.html>

毎月第3日曜日は「家庭の日」

図書ボランティア養成講座

大田原市では毎年、読み聞かせボランティア養成講座、図書修理ボランティア養成講座を開催しています。

今年度は、読み聞かせ講座に絵本コーディネーターの東條知美様、修理講座に栃木県立図書館資料課の浜野絵梨子様をお招きして開催しました。既にボランティア活動をされている方や、これから始めてみたいという方も、とても熱心に受講していただきました。

子どもたちが豊かな生き方をしていくためには、言葉を学び、感性を磨き、表現力や判断力を高め、創造力を豊かなものにしていく必要があります。そのためには、読書に親しむことのできる環境づくりが大切です。

今回受講された皆様が、本と子どもたちの架け橋となり、読書活動がさらに活発になることを願っております。



第12回和い輪い学習フォーラム

那須町では、11月8日(火)に「第12回和い輪い学習フォーラム」を開催し、学校運営協議会委員、学校教職員、保護者、地域住民等が地域の未来について語り合いました。町文化センターと那須中学校を会場に、約170名の参加がありました。

今回は「子どもたちの放課後、休日をデザインしよう!」をテーマに、部活動の地域移行に係る課題や、放課後と休日を充実させるためのアイデア等について話し合いを行いました。町教育委員会は今後、参加者から出た意見やアイデアを参考に、部活動の地域移行を進めていきます。



那須野が原博物館 展示案内

企画展「みんなの学校物語」

令和4年は、日本における最初の近代的な学校教育制度となる「学制」が制定されてから、150年の節目の年にあたります。

今回の展示では、市内小学校・中学校・義務教育学校に焦点を当て、教育の歴史や学校の変遷をたどるとともに、学校での生活にも注目し、郷土における学校教育の歩みを紹介します。

■会期 12月24日(土)～来年4月9日(日)

■会場 那須野が原博物館 企画展示室

寺子小学校での授業風景



とちぎ未来大使「夢」講座

県内外で活躍する「とちぎ未来大使」を講師とし、中学校時代の経験や目標を達成した過程を、講話や実演、交流等を通して中学生に伝え、「夢」について考える機会を提供しています。

本年度、本地区中学校で開催した講演、及び今後講演予定の方々です。

- 桂 由美 氏 (フライダルファッションデザイナー)
「夢を追いかけ続ける～日本の美の発信～」
- 菊池 元男 氏 (ラジオパーソナリティ)
「夢を叶える魔法の言葉」
- 原 博実 氏 (元サッカー日本代表)
「後輩に伝えたいこと」
- 真島 茂樹 氏 (振付師)
「夢に向かって、一生踊り子」
- 書道家 さおり 氏
演題未定





がんばる学校・地域！応援プロジェクト



本事業では、モデル校の取組の一つとして「活動充実のための研修の実施」があります。学校と地域の連携・協働の理解促進や、地域づくりに関する熟議等、実施方法や参加者等は学校及び地域の実情に応じて設定できますが、本地区のモデル校である那須町立高久小学校と那須塩原市立黒磯中学校の研修会には、多くの地域の方々が参加しました。今回は、両校で行われた研修の様子を紹介いたします。

那須町立高久小学校

11月2日（水）、教職員やPTA、学校運営協議会委員、育成会長等が参加して、研修会を開催しました。講師及びファシリテーターは、地域連携マスターの廣瀬 隆人 氏です。

研修テーマを『創立 150 周年を盛り上げよう』～学校を核とした地域づくりのために～とし、今後も学校と地域が持続可能な連携・協働を続けていくために、参加者がそれぞれの立場で、意見を述べていました。ふりかえり、「いろいろな方と意見交換ができて良かった。」とあるように、研修が地域のつながりづくりのきっかけになればと思います。



多様な世代の方々が参加した研修会

那須塩原市立黒磯中学校

10月19日（水）、教職員や中学生、地域学校協働本部関係者等が参加して、研修会を開催しました。講師及びファシリテーターは、地域連携マスターの廣瀬 隆人 氏です。

研修テーマを『黒中ワークショップ～中学生と一緒に地域づくり～』とし、10グループに分かれて熟議を行いました。「黒磯のいいところ」について思い思いに発表し、より魅力的な地域づくりについて話し合いました。参加した中学生は、「たくさんの大人の方と話し、みんな黒磯が大好きなんだと感じました。」と、地域のよさを再確認していました。



中学生と一緒に大人も生き生き熟議

令和4年度那須地区人権教育指導者一般研修 ふれあい人権フォーラム

令和4年12月8日（木） 那須町文化センター

本年度は「一人一人が尊重される社会を目指して」をテーマに開催しました。埼玉大学基盤教育研究センター准教授 渡辺 大輔 氏を講師にお招きし、「性の多様性をめぐる教育の課題」について御講話いただきました。具体的な事例を織り交ぜながら分かりやすく解説していただいたほか、参加者からの質問にもお答えくださいましたので、以下のとおり紹介いたします。

質問 学校におけるトイレ・更衣室の使用について、どのような方法があるか。

【渡辺氏】「トイレについては、教職員トイレやあまり人が使わないトイレなどを性自認や本人の生活実態（性表現や友達との関係）に合わせて使うなどが考えられる。また、更衣室については、空き教室や保健室を使ったり、時間差で使ったり（授業に遅れる可能性あり）、パーテーションなどで個室を複数作り、誰もが使えるようにしたりなどの工夫が考えられる。いずれにしても、本人が一番安心できるのは何かということを話し合う。」

質問 男性生徒がスカート着用を希望する場合、どう対応したらいいか。

【渡辺氏】「登録上男性生徒のスカート着用については、本人の希望に合わせてはけばよい。いじめやからかいが起これば、いじめる側を指導する。社会規範と異なる制服を選んだからといって、全員にカミングアウトする必要はないし、教職員が勝手に本人の性の状態を言ってはならない。」



《研修時間内に質問できなかったことも含め、質疑応答の全文を那須教育事務所ホームページに掲載します。》